



美浦のストーリー「木原霞囃子の始まり」

美浦村の城山祭りや木原祇園祭で見る「木原霞囃子」。伝統文化が消えていく地域もある中、美浦村ではお囃子が受け継がれており、さらに保育園児から大人まで多世代が参加していて驚きました。そこで今回は「木原霞囃子はどれくらい前から続く伝統的なお囃子なのか」ということを、聞き伝えを含み、様々な方からお伺いしました。

木原霞囃子の始まりは「愛宕保存会」。この保存会は太鼓を中心に活動していましたが、担い手不足から存続が困難になり、その後、祇園祭の出し物のため「霞囃子」としてお囃子のスタイルに変わったそうです。なお、愛宕保存会と霞囃子には、男性のみが参加できるという決まりがありました。

しかし、メンバーの高齢化が進み存続が厳しくなったころ、約18年前に木原学区子ども会育成連合会を中心に「お囃子を楽しむ会」が結成され、その後現在の「木原霞囃子」という形になりました。練習には石岡市からお囃子の先生に来てもらっていたそうです。

このように存続危機を乗り越えた今でも、祭りで人手が足りない時は、阿見町やつくば市などのお囃子チームと協力し合い、手伝いに行ったり、来てもらったりしているとのことなのです。

今年度から美浦村の地域クラブとして霞囃子が活動するとのことなので、さらなる発展が楽しみです！



←木原祇園祭での霞囃子



→木原地区にある愛宕神社の入り口（愛宕保存会と関係があったかは不明）

～体験&縄文の森コンサート～

おかだいら縄文フェスタ2024

秋の陸平貝塚公園で、体験やアルトサックスの音楽コンサートを楽しもう！
どうぞお気軽にご来場ください。

10/12(土)《体験》

予約不要

- ◆会場 陸平貝塚公園
 - ◆時間 10:00～15:00
 - ◆体験 縄文土器、土笛、縄文フッキー、まが玉、コースター、花炭、火おこし、弓矢など
 - ◆実演 竪穴住居燻蒸(午前)
 - ◆陸平貝塚案内ツアー ①11:00～ ②13:30～
- ※雨天時は野外での体験を縮小・中止する場合があります。
- ◆キッチンカー
 - ◆グッズ販売 竹炭など

10/13(日)《縄文の森コンサート》

入場無料

- ◆会場 文化財センター
- ◆時間 13:00 開場／13:30 開演

演奏者：近藤 淳

アルトサックス奏者。1952年生まれ。73年よりプロとして札幌を中心に活動を始め、84年に高橋達也&東京ユニオンオーケストラに入団、ソリストとして活動し脚光を浴びる。89年、同オーケストラ解散後、フリーとなり、スタジオミュージシャンとして活動。これまでに多数のアルバムに参加。コンサート、ミュージカルにて欠かせない存在となっている。



お問合せ 文化財センター ☎029-886-0291(美浦村大字土浦2359)